

**田ノ口小学校・三浦小学校
イチゴ狩りで農家体験**

5月28日、田ノ口小学校と三浦小学校4年生が社会科見学を実施しました。

役場の水道係や衛生センターの担当者から仕事の内容や生活に身近な水道やし尿処理の話聞き取りしました。

今年は、二宮孝二さん・智砂さん夫妻にご協力いただき、蜷川地区のハウスでイチゴ狩りも体験することができました。

ハウスいっぱい広がるイチゴの香りに、子どもたちも先生も「いい香りがする!」「おいしいそう!」と感激です。

取り方などを教わると、みんな赤く熟したイチゴを見つけては口にはお張り「おいしい!」「甘い!」と喜びながら、持ってきた入れ物をイチゴでいっぱいにしていました。

二宮さんは、ハウス園芸を始めた平成14年から「子どもたちに喜んでもらえたら」という思いで、毎年5月下



旬から6月上旬の収穫終わりの時期に、町内の保育所や小学校の子どもたちへのイチゴ狩り体験を受け入れしているそうです。

「子どもたちの笑顔を見るのが楽しみです。今後も継続していきます。時期は限られますが、保育所や小学校だけでなく一般の方からも依頼があればできる範囲で対応したい。希望があれば遠慮なく言ってください」と話してくれました。

**土佐西南大規模公園「球技場」
の芝が新しくなります**

5月から7月にかけて土佐西南大規模公園の球技場(サブミニグラウンド)の芝生張り替えが行われています。(NPO砂浜美術館公園管理部)

球技場の1コート分ですが、従来の高麗芝(日本芝)ではなく、多目的広場のティフトン(西洋芝)を移植してみました。

8月上旬(予定)には、柔らかな芝生の上でスポーツを楽しんでいただけると思っています。お楽しみに!



整備作業のため利用停止となり大変ご迷惑をおかけしています。

○お問い合わせ・予約

NPO砂浜美術館
公園管理事業部

(土佐西南大規模公園体育館内)

☎ 43-0166

祝 大方文学学級「大形」



250号発刊達成

**『大形』250号発刊によせて
編集責任者 宮川昭男**

昭和40年7月に公民館文学学級の機関誌として呱呱の声をあげた『大形』が、本年5月で250号となる。

創刊以来44年、ほぼ一貫して年6回のペースで発行してきたのであるが、地域総合文芸誌がこれほど継続発行している例は、県下は無数のこと、全国的にも非常に珍しいのではあるまいか。

創始者であり、育ての親でもある下村吉壽・塩田広の両先生をはじめとして、長く表紙絵を描き続けてくださった篠田真武先生や柿内実・浜田数義・中山一志・文野和・植田馨先生たちを中心とした努力は勿論であるが、その時々会員のみなさんのあたたかい協力あってこそその歩みであったと思う。

私が編集責任者になってか

らも、10年余りになるが、その間、原稿集めに苦労した記憶はあまりない。みなさん、ほぼ締め切りを守ってくださいている。

250号記念特集号は、会員みなさんの俳句・短歌・詩・文章に加え、上林暁やタカラ・テルについての論考をはじめとして、江戸末期大方郷の俳諧のことや鹿持雅澄の小袖貝の歌、『大形』の歩みをふり返った記事など、大変充実した内容になっている。

私たちは、これからも、病床で死の4日前まで書き続けた上林暁の強靱な文学精神に学びながら「己が生活に即し、現実を直視しながら、その時々喜びや悲しみ、苦しみや怒りの真実を詠い続け、書き綴っていききたい」(110号巻頭言へ植田馨より)と思う。

大方文学学級機関誌『大形』は、大方図書館・佐賀図書館で貸し出しされています。
『大形』の購読や、文学学級に入会を希望される方は、大方あかつき館(☎ 43-0120) または宮川昭男(☎ 43-2567)までご連絡ください。

佐賀取水堰関連の河川環境等の調査結果(中間取りまとめ) 説明会開催

黒潮町にある佐賀発電所の水利権は、平成23年4月7日が許可期限となっています。

佐賀発電所の取水堰(四万十町設置)は、前回水利権の更新(平成13年)以降、一定の水量を四万十川下流に放流することとなりました。

県などでは、堰周辺における河川環境の調査などを継続実施し、この調査結果の分析・評価などを行うため、平成20年7月に「佐賀取水堰に係る専門家会議」を設置、平成21年3月までに4回の会議を重ね、中間的とりまとめが報告されました。

この結果を受け、去る6月5日(金)総合センターで県による中間取りまとめの説明会が開催され、町内外から約140人の方々が参加しました。

※水力発電は河川の水を利用するため、地球温暖化の原因と考えられる二酸化炭素(CO₂)をほとんど排出せず、環境にやさしいエネルギーです。

伊与喜保育所 木のベンチをもらったよ!

「園庭で遊ぶ子どもたちや、最後の夕涼み会には地域のたくさんの方に利用してもらえよう」と、保護者の青木孝広さんから丸太のベンチを寄贈していただきました。子どもたちは上に座ってひと休みしたり、転がしたり太鼓がわりに遊んだりと楽しんでいきます。新しい保育所に移って、大切に使用させていただきます。どうもありがとうございました。



伊与喜保育所と拳ノ川保育所は、長い年月の間、地域の乳幼児が通う園としてだけでなく、小学校児童や地域の住民の方々が集まり、交流を深める大切なひとつの場として存在しています。

来年の保育所統合を控え、両保育所とも、最後の夕涼み会は、保護者や関係者だけでなく、卒園した方々や地域内外に限らずたくさんの方で盛大に行いたいと思いますので、みなさん誘い合ってお越しください。

伊与喜保育所夕涼み会

日時：7月18日(土)午後5時30分～
場所：伊与喜保育所



浮津婦人会廃油を利用した「EM石けん」づくり

6月18日、浮津集会所でEM石けんづくりが行われました。浮津地区では、婦人会が環境保全への取り組みの一環として、廃油とEM発酵液を使って「EM石けん」を手づくりしています。

使用する油は、家庭や地区内で行うふれあいサロンや社会福祉協議会での給食サービなどで調理した際に使った残り油を漉したものです。

環境への負担を軽くするために、EM発酵液を混ぜられています。婦人会のみなさんによると「EM発酵液は肌にも効果があるみたいですよ。乾燥肌がかゆくならないので、液をお風呂に入れたりする人も多いですよ」「湯冷めもせんとよ」とのこと。他にも、液を千倍に薄めて野菜や植物への栄養剤としても利用できるそうです。

EM発酵液は、大方EMグループ(大方橘川・加持・浮津)の取り組みの中で約10年前から作られており、地域周辺の多くの家庭で使用されているようです。

このEM発酵液を利用した

石けんを2年ほど前から作るようになり、婦人会のみなさんの家庭から地域の方々、口コミで広がりながら町内外でも利用者が増え、一度使った気に入った方が集会所まで遙々買いにきてくれているそうです。「EM石けんは、台所まわりの油污れとか靴下の泥よごれを落とすのにいいよ、そのままか、たわしに付けてこすったらすぐに落ちるよ」「私はね、お風呂で体や顔に普通に使いよう。乾燥せんからね」

「小さく切ってトイレに消臭用で使える」石けんも色々な使い道があるようです。大きなポリバケツで、いっぺんにたくさん石けんを作ります。この日は一リットル牛乳パック13本分ができあがりました。



EM石けんは、浮津集会所で販売もしています(1個100円)